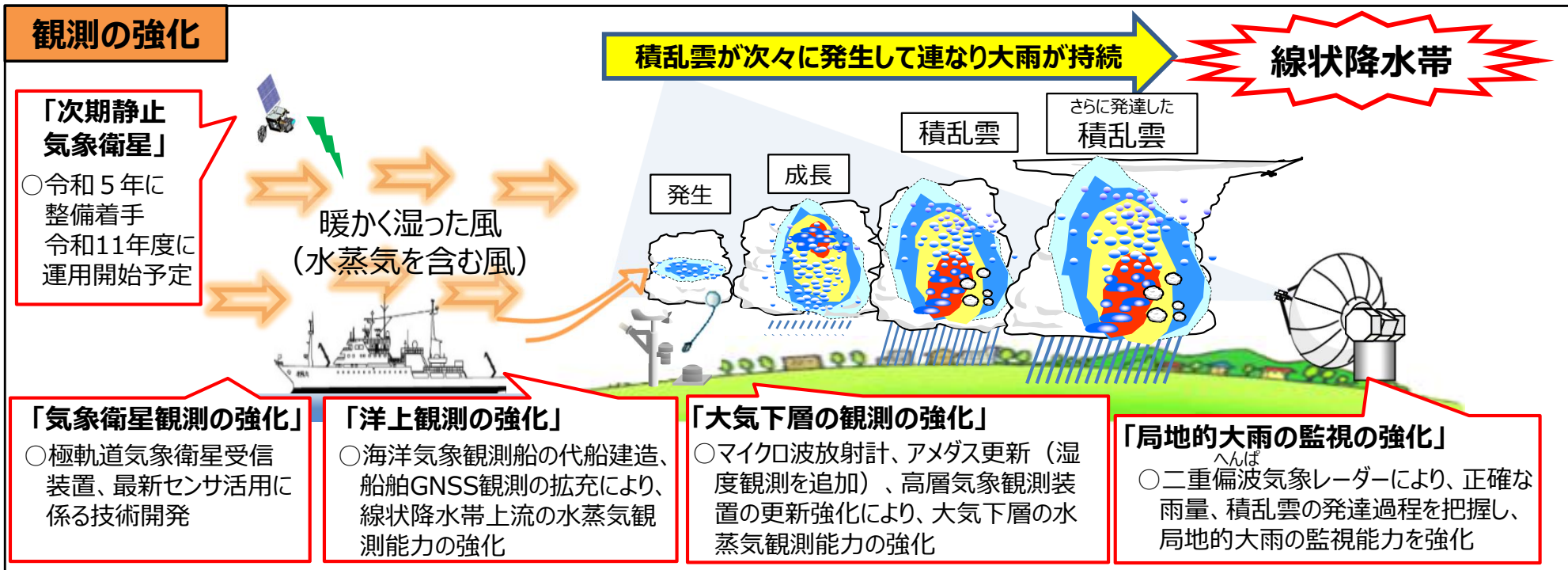


線状降水帯は、現状の観測・予測技術では、正確な予測が困難なため、水蒸気観測等の強化、強化した気象庁スーパーコンピュータや「富岳」を活用した予測技術の開発等を進め、速やかに防災気象情報の高度化に反映し、住民の早期避難に資する情報を提供する。



水蒸気量等の観測データ



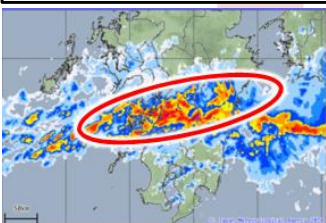
線状降水帯の予測精度向上に向けた取組（情報の改善）

観測の強化、予測の強化の取組の結果を順次反映することで、令和4年度より、線状降水帯による大雨の可能性の半日程度前からの呼びかけを開始し、令和5年度より、「顕著な大雨に関する気象情報」（線状降水帯の発生をお知らせする情報）をこれまでより最大30分程度前倒して発表する運用を開始。今後も、段階的に予測精度を向上。

線状降水帯による大雨の可能性をお伝え

「**明るいうちから早めの避難**」・・・段階的に**対象地域を狭めていく**

令和3(2021)年
線状降水帯の発生をお知らせする情報
(令和3年6月提供開始)



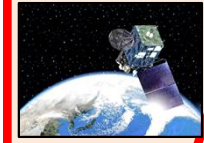
線状降水帯の雨域を楕円で表示

令和4(2022)年～
広域で半日前から予測
(令和4年6月提供開始)

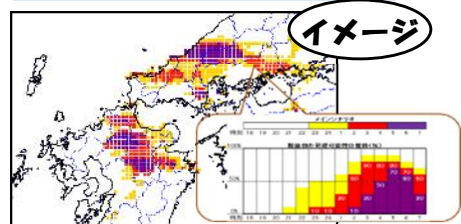
令和6(2024)年～
府県単位で半日前から予測
〇〇県では、△日未明から明け方にかけて線状降水帯が発生し、大雨となるおそれがあります。

イメージ

次期静止気象衛星
(令和11年度運用開始予定)



令和11(2029)年～
市町村単位で危険度の把握が可能な危険度分布形式の情報を半日前から提供



イメージ

今年度の新たな運用

令和5(2023)年～
最大30分程度前倒して発表
(令和5年5月25日提供開始)

令和8(2026)年～
2～3時間前を目標に発表

線状降水帯の雨域を表示

「**迫りくる危険から直ちに避難**」・・・段階的に**情報の発表を早めていく**

※具体的な情報発信のあり方や避難計画等への活用方法について、情報の精度を踏まえつつ有識者等の意見を踏まえ検討

国民ひとりひとりに危機感を伝え、防災対応につなげていく